

ブリーチの原理

シチュエーションごとにブリーチやオキシの使い分けに迷わなくなる。
バージン毛からのトーンアップ・既染毛の残留だけ取りたい時など
ブリーチワークの幅がグッと広がる内容です。

目次

- 01 脱色のメカニズム
- 02 ダメージの原因と対策
- 03 パワーコントロール
- 04 具体例
- 05 よくある疑問と対策



1 剤

アルカリ
過硫酸塩



2 剤

過酸化水素水
(オキシ)

1 剤



過硫酸塩

アルカリ

2 剤



過酸化水素水

強い脱色力のある
ブリーチ 薬剤が完成

カラーの脱色力よりも強い脱色力になる。



過硫酸塩が含まれているから

結合の損傷

シスチン結合が損傷する

症状

切れ毛・枝毛

対策

プレックス剤

外部損傷

症状

ざらつき・見た目

対策

※1 8 MEA・シリコン

※CMCの中に含まれる
接着剤的な成分

内部損傷

髪がテロテロになる状態

症状

弾力・ハリコシ

対策

ケラチン系

倍率

3倍 < 2倍 < 1.5倍
倍率を変えると仕上がりの明度も変わる

オキシの濃度で変わるのは脱色スピード

※3%でも時間をおけば同じ明度まで抜ける

保湿

無し < 有り

ラップ・アルミ・コットンなど

温度

常温 < 温かい (加温)

加温する場合は必ず100度未満

※水分が蒸発するため正常な反応が起こらない

塗布量

少ない < 普通 < 多い

一枚毎のパネルに対して

※ムラの原因として一番多い

粘度

柔らかい < 硬い

オキシの硬さ

※薬剤の髪への密着度で変わる

土台

無し < 有り

ボードなど

※髪へ押しこむように塗布できるので

主に **アルカリ量[★]** と **粘度** が変わる

強い/硬い

オキシ2倍

アルカリ量が**上がる**
粘度が**硬くなる**

- ・できる限り速く
- ・できるだけ明るく
- ・細かい作業しやすい
- ・塗り分けしやすい

例) ブリーチ履歴が複雑で塗り分けたい時、早くしたい時

弱い/緩い

オキシ3倍

アルカリ量が**下がる**
粘度が**緩くなる**

- ・ゆっくり反応させたい
- ・できるだけダメージレス
- ・コスパ良い
- ・ムラになりにくい (誰が塗っても)

例) エアータッチやロング多毛など時間のかかる作業の時

★ 1 剤のアルカリがオキシで薄まるイメージ

強

6%

1.5倍

2倍

3倍

追いブリーチ

抜けやすく
ムラになりやすい

バージン毛

ブリーチのリタッチ
既染毛からホワイト

4.5%

2倍

3倍

既染毛 ~ ブリーチ毛

なるべく髪に
負担をかけずに
17lvくらいまで
あげたい時に

3%

2倍

3倍

弱

1.5%

2倍

3倍

ブリーチ毛残留除去

明度は変えず
残留ティントだけ
除去したい時

Q. バージン毛から1ブリーチで明るくしたい

A. 6% 2~3倍

Q. バージン毛から2ブリーチで明るくしたい

A. 1回目6% 2~3倍、2回目6% 2倍

※明度を揃えやすいので弱め→強めで抜く

Q. ブリーチ毛の残留を取って色味を変えたい

A. 3% 3倍前後

※ハイダメージの場合1.5%の場合も

Q. ブリーチリタッチで18Lvに繋げたい

A. 4.5~6% 2倍

※リタッチの場合操作性重視で2倍（軟毛は4.5）

Q. 短時間でトーンアップしたい

A. 6% 2~3倍

※塗布の時間短縮したいなら3倍、明度優先なら2倍

Q. 時間かけてもダメージレスに仕上げたい

A. 3~4.5% 3倍

発泡・液状化

なりやすい⇒
(追いブリーチ2回目推奨)

なりにくい⇒
(ブリーチ1回目推奨)

ブリーチ後のオンカラー時に
色が入らない

原因

過硫酸塩とアルカリと過酸化水素水のバランスが崩れることによる過剰反応

対策

パワーを弱める(6%2倍や1.5倍で起こりやすい)

パワー型

アリミノ120・フィヨール・タマリス・ハホニコ

バランス型

ファイバー・アディクシー・クリーム系・KG
ブリーチマスター・N・アクセスフリー

基準

粒子が粗い(パワー)か細かい(バランス)か
(上記以外のブリーチの見極め)

ポイント

めちゃくちゃ混ぜる
(カップの下に残っていたりすると濃度が変わってしまう)

原因

過硫酸塩の残留(頭皮付近に残りやすい)

対策

よく流す or
クリア: 1.5% = 1:1 を揉み込み5分
(↑根元にブリーチべた塗りのケースにオススメ)